

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17109016	シェーグレン症候群発症の分子基盤の解明と新たな診断・治療法の創出	林 良夫 (徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授)	A
<p>唾腺細胞のアポトーシスに関連して発現誘導される細胞周期関連タンパク RbAp48 を見だし、シェーグレン症候群の病態発症における役割を明らかにしてきた。トランスジェニックマウスの作成にも成功するなど、順当に解析を進めている。また、レバミピドの作用の探求も行われ、治療法の創出にも努力がみられる。しかし、当初の目標であるα-フオドリンに関する発症機序の解明に関しては、その進展がやや遅れているので、一層の努力を今後期待したい。</p> <p>研究成果は、Moll Cell Biol , Blood, Arthritis Rheum など、質の高い論文に発表されており、学術的な価値は高い。これまで本プロジェクトに関わる研究者が少ないことから、今後の研究推進にあたり、若手研究者の一層の確保や、他機関との共同研究を増やすなど、その点の改善をはかる必要がある。</p>			